

礫浜の希少カニ類マメアカイソガニの瀬戸内海沿岸からの記録

岡野 良祐・和田 恵次

Ryosuke OKANO and Keiji WADA: Record of the rare pebble-shore crab *Cyclograpsus pumilio*
from the coast of the Seto Inland Sea, Japan

南 紀 生 物
第 62 卷 第 2 号 別刷

Reprinted from
NANKI SEIBUTSU: The Nanki Biological Society
Vol. 62, No. 2
Dec. 2020

礫浜の希少カニ類マメアカイソガニの瀬戸内海沿岸からの記録

岡野 良祐¹⁾・和田 恵次^{1)*}

Ryosuke OKANO and Keiji WADA: Record of the rare pebble-shore crab *Cyclograpsus pumilio* from the coast of the Seto Inland Sea, Japan

はじめに

モクズガニ科アカイソガニ亜科に属するマメアカイソガニ *Cyclograpsus pumilio* HANGAI & FUKUI, 2009 は、2009年に和歌山県白浜町坂田を基産地として新種記載された (HANGAI *et al.*, 2009) 小型 (最大甲幅 10 mm 未満) のカニである。本種の生息場所は礫浜の小潮平均満潮線から大潮最大満潮線までの高潮帯に限られる (中岡・和田, 2014, 2017) ため、記録情報が多くなく、環境省 (2017) では情報不足 (DD) に選定されている。これまでの本種の記録地域は、太平洋沿岸では千葉県・神奈川県・静岡県 (山下ほか, 2020a, b; 土井, 私信), 紀伊半島沿岸 (HANGAI *et al.*, 2009; 締次, 2013; 中岡・和田, 2014), 四国沿岸 (和田, 2012; 中岡・和田, 2014), 九州南岸 (中岡, 私信) で、日本海沿岸では石川県から兵庫県までと (中岡・和田, 2014; 中岡, 私信), 島根県から九州北岸まで (桑原・林, 2014; 小山ほか, 2018) になっている。すなわち日本の中部から九州までにまたがった分布域もっているが、その中にある瀬戸内海沿岸からは、わずかに大阪湾南端の紀淡海峡付近と播磨灘南端の鳴門海峡付近だけから記録があるに過ぎない (和田, 2012; 中岡・和田, 2014)。このたび瀬戸内海西部に位置する伊予灘沿岸で本種を採集したので、瀬戸内海中西部からの初めての記録として報告する。

採集地と方法

2020年3月11日に愛媛県八幡浜市保内町磯崎の夢永海水浴場 (33°32'25"N, 132°24'20"E) の海岸崖下の堆積礫下よりマメアカイソガニとみられる2個体を第一著者の岡野が採集した。得られた標本は70%エタノールで固定後、HANGAI *et al.* (2009) に従い、種の同定と雌雄の判別ならびにノギスによる甲幅 (CW) 測定を行った。標本は大阪市立自然史博物館 (OMNH) に保管登録した。

種の記録

Varunidae H. MILNE EDWARDS, 1853 モクズガニ科
Cyclograpsinae, H. MILNE EDWARDS, 1853 アカイソガニ亜科
Cyclograpsus H. MILNE EDWARDS, 1853 アカイソガニ属
Cyclograpsus pumilio HANGAI & FUKUI, 2009 マメアカイソガニ

1 ♀: 5.7 mm CW (OMNH-Ar-11742); 1 ♂: 4.2 mm CW (OMNH-Ar-11741)

採集標本 (図1) は近縁のアカイソガニ *Cyclograpsus intermedius* ORTMANN, 1894 とは以下の点で明らかに異なっていることで本種と同定できた。甲の前部がややふくらむこと (アカイソガニでは平坦), 歩脚の前節下縁に剛毛を具えること (アカイソガニでは剛毛なし), 歩



図1 マメアカイソガニ標本写真。A: OMNH-Ar-11741 (♂), B: OMNH-Ar-11742 (♀)。

¹⁾ 〒 559-8519 大阪市住之江区南港北1-24-22 いであ (株) 大阪支社 * ilyoplaxkeiji@gmail.com



図2 マメアカイソガニ採集地の景観 (A) と礫環境 (B)

脚長節の上縁に小顆粒をちりばめること (アカイソガニでは小顆粒は不明瞭), さらに雄の第7腹節下縁が第6腹節に若干湾入すること (アカイソガニでは同下縁はまっすぐ) である。

生息状況

海岸崖下の大潮満潮線直上付近の礫下 15 cm 付近 (図 2A) から, ハマベハサミムシ *Anisolabis maritima* (BONELLI, 1832) やカタモンハネカクシ *Liusus hilleri* (WEISE, 1877) と一緒に採集された。採集場所の礫は径 20 cm 以下の平たい円盤状のもので (図 2B), 周囲には本種の餌となる (中岡・和田, 2014) 打ち上げ海藻が漂着していた。

謝辞

調査に同行し, 後日環境写真を撮影していただいた黒田啓太氏 (愛媛県立衛生環境研究所・生物多様性センター) 並びに標本の登録をいただいた大阪市立自然史博物館の石田 惣氏にお礼申し上げます。

引用文献

HANGAI, R., J. KITaura, K. WADA & Y. FUKUI. 2009: A new species of *Cyclograpsus* (Brachyura: Varunidae) from Japan, co-occurring with *C. intermedius* ORTMANN, 1894. *Crustacean Research*, **38**, 21–27.
環境省. 2017: 甲殻類 海洋生物レッドリスト (2017). <https://www.env.go.jp/press/files/jp/106405.pdf>. (2020

年 5 月 27 日参照)

中岡由紀子・和田恵次. 2014: 礫浜の希少カニ類マメアカイソガニの地理的分布と生息場所特性. *地域自然史と保全*, **36** (2), 109–114.
中岡由紀子・和田恵次. 2017: 礫浜上縁部に生息するマメアカイソガニの生息場所選好性. *日本ベントス学会誌*, **72**, 12–15.
小山彰彦・若林瑞希・乾 隆帝・鬼倉徳雄. 2018: 山口県および九州北部におけるマメアカイソガニの分布と生息環境. *日本生物地理学会会報*, **72**, 242–246.
桑原友春・林 成多. 2014: 鳥根県におけるマメアカイソガニの記録. *ホシザキグリーン財団研究報告特別号*, (13), 13–18.
縮次美穂. 2013: 三重県におけるマメアカイソガニの記録. *南紀生物*, **55** (2), 159–162.
和田太一. 2012: 徳島県の礫浜海岸における四国初記録のキタフナムシとマメアカイソガニ. *徳島県立博物館研究報告*, (22), 69–78.
山下龍之丞・乾 直人・山川宇宙・矢野優貴. 2020a: 神奈川県および静岡県伊豆半島初記録のマメアカイソガニ *Cyclograpsus pumilio* HANGAI & FUKUI, 2009. *神奈川自然誌資料*, (41), 21–26.
山下龍之丞・是枝伶旺・古橋龍星・齊藤洪成・碧木健人・山川宇宙. 2020b: 千葉県房総半島および鹿児島県薩摩半島初記録のマメアカイソガニ *Cyclograpsus pumilio* HANGAI & FUKUI, 2009. *Cancer*, (29), 39–44.